

GREAT tomorrow

津木林 洋

頼まれた記事を書こうとスタバの席に坐り、俺はノートPCを開いた。編集部から渡された資料を基に、練っていた話を書き始めた。

その時、隣の席に坐った若い男が鞆から GREAT tomorrow を取り出すのが見えた。少し胸がざわつく。俺はキーボードを叩きながら、どの記事を読んでいるのかとちらちら盗み見た。

「十万円を一年で百倍にする方法」

見出しが見えた。俺はどきりとした。先月俺の書いたでっち上げの記事である。若い男はやけに熱心に読んでいる。

そんな記事を読む暇があったら、真面目に働いた方がいい。彼の側に行って、余程そう囁きたかったが、何このオッサンと睨まれるのがオチだろう。

俺はコーヒーを飲み干すとPCを畳み、そそくさと席を立った。

「あら、もう書けたの？」

三カ月の息子をあやしながら妻が言う。

俺は早く帰ってきた理由を説明した。

「気にせずに堂々と書けばいいじゃない」

「出鱈目の記事を読んでいる男の横で、出鱈目の記事を書くのはさすがに気が引ける」

「気が引けるんだったら、あなたも一度くらい実行してみたらどうなの」

そんなことをすれば二度と書けなくなるのが分からないのか、と俺は心の中で毒づいた。

俺はキッチンの椅子に腰を降ろし、PCを開いた。続きを書こうとしたが、ふっと思い付いて冒頭にカーソルを持って行った。あの若い男の顔を思い浮かべながらキーボードを叩く。

「金持ちになる第一歩は、金持ちになりたいと思うことである」